

KT師重賞本命と見解【きさらぎ賞・東京新聞杯】

きさらぎ賞

昨年未からの中京芝 2000m 以上の種牡馬成績は

ハービンジャーが 7 勝で断然の 1 位。

他も欧州型、スタミナ型が並んでいます。

本命はシェルビーズアイ。

父は絶好調のハービンジャー

前走は新馬戦を勝った後のハイレベルレース。

欧州型のハービンジャー産駒だけにいきなりの追走ペースアップに対応できず。

仮に G1 級の能力があったとしても流れの違いに戸惑います。

結果的に最内枠も向きませんでした。大幅な巻き返しも見込めます。

東京新聞杯

東京新聞杯の血統傾向は、中距離指向の

直線スピードに優れた馬が続々と走るレース質。

本命はファインルージユ。

シャドウディーヴァ、リスグラシュー、ホエールキャプチャなど
芝の中距離 G1 で実績を残す牝馬が高確率で走ります。

過去 10 年の当レースは 5 人気以内に支持された牝馬は 5 頭出走。

3 勝。4 着以下は 1 頭。

6 人気以下の牝馬も 11 頭出走して 3 頭が連対。

単勝、複勝回収率ともにプラス収支。

ソングラインもそうであるように、キズナは牝馬。

特に母系も速い血統馬はマイルの直線スピードにも長けた馬を出します。

ドナアトラエンテ、マルターズディオサもディープ系の牝馬。相手妙味は十分。

イルーシヴパンサーは短縮と昇級戦は戸惑いやすい血統。

相手強化で急上昇する血統ではありません。

ホウオウアマゾン は 1400m 指向。

短縮で激走後に中距離指向のマイル替わりでは信用できません。